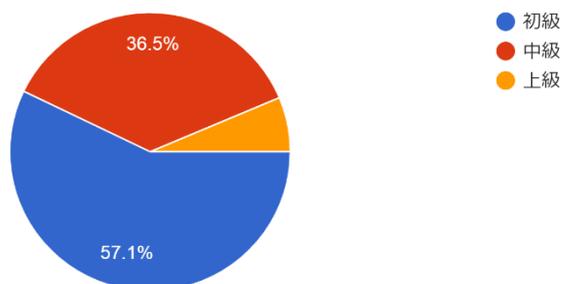
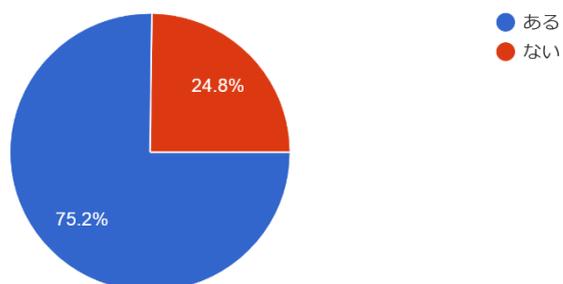


日本社会学会 2020年英語論文ワークショップ 事前アンケート
中間結果報告（計127件の回答）（2020年1月23日時点）

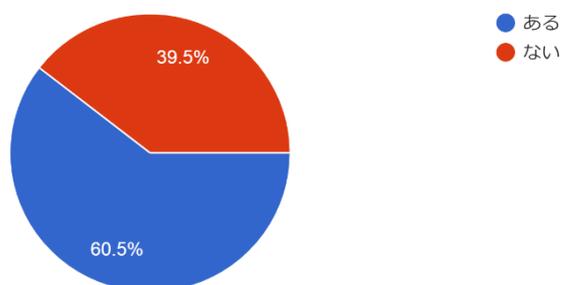
英語の執筆能力に対するあなたの自己評価は次のどれに当たりますか。
126件の回答



これまでに英語で報告したことはありますか。
125件の回答

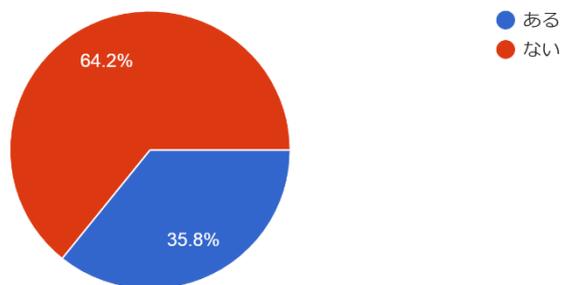


これまでに英語で論文を執筆したことはありますか。
124件の回答



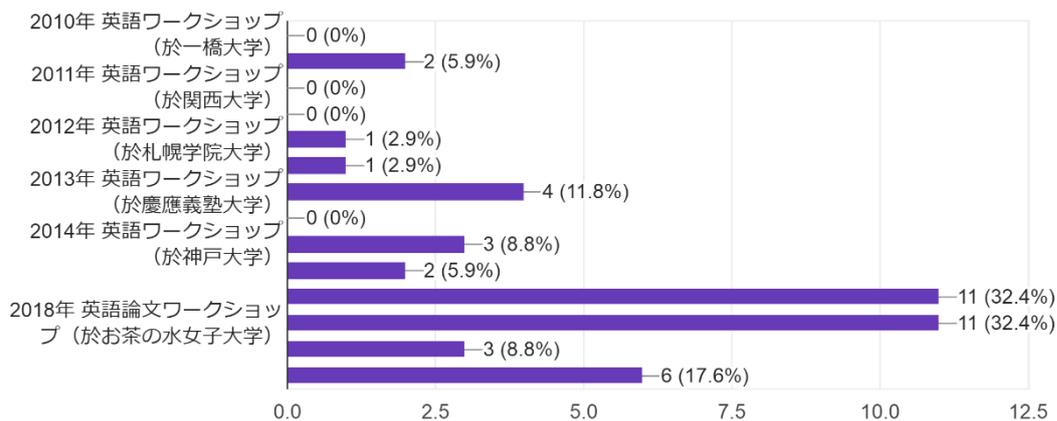
これまでに英語で執筆した論文が学会誌などに掲載されたことはありますか。

123 件の回答



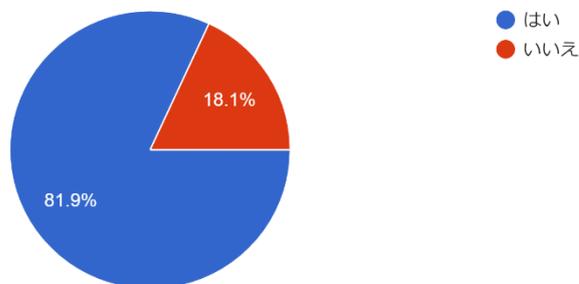
日本社会学会が主催した次のワークショップのうち...当するものすべてにチェックを入れてください。

34 件の回答



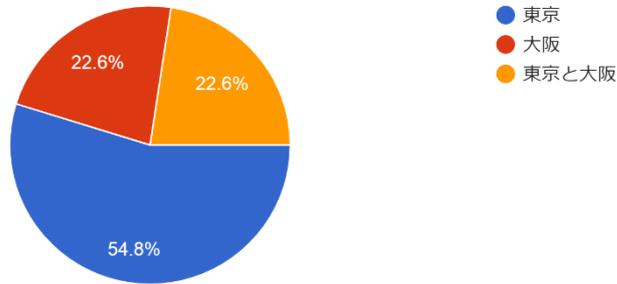
あなたは、今後、英語ワークショップに参加することに関心がありますか？

127 件の回答



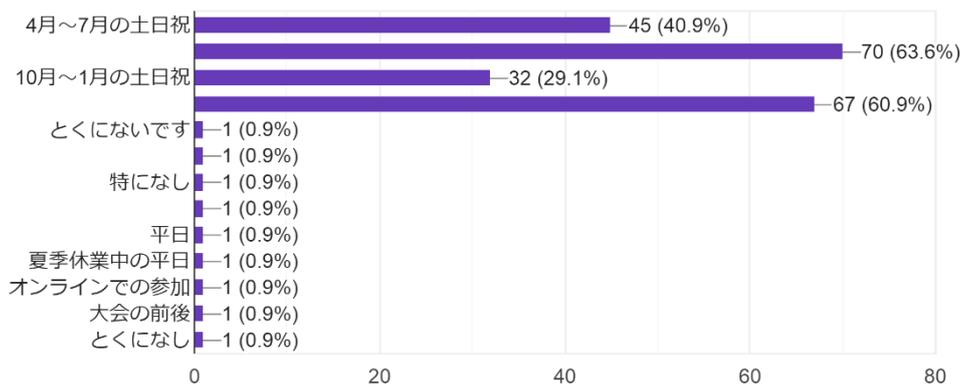
あなたが希望するワークショップの開催場所を教えてください。

115 件の回答



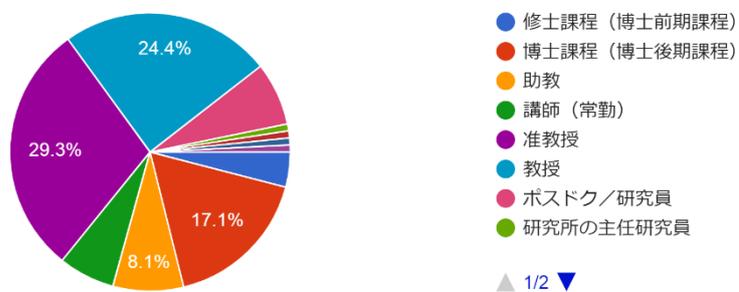
あなたが希望する開催時期をすべてお答えください。

110 件の回答



あなたの学位課程／職位は次のどれですか。

123 件の回答



2020年英語論文ワークショップに対する要望を自由に記述してください。23件の回答

特にありません。

英語で論文を書けば、同じ内容であっても高い評価になるというのはおかしいと思っている。

質的研究でどのようにアクセプトされるために必要なこと

若手に機会をご用意ください。

国際ジャーナルにおける査読論文の書き方を取り上げていただけたら有益かと思います。英語のスピーチは多少下手でも何とかできますし、アブストラクトも校閲して提出すれば自分の英語は多少拙くても何とかできます。書いているうちに慣れる部分もあります。しかし、査読は書き方が分かっていないと通らないので、ワークショップで情報交換できたら、非常に有益かと思います。

米国の学術誌のエディターを呼んで講演・対談をして頂けたら幸いです。

歴史社会学を専門としているが、この領域の研究で英語論文として書けるかどうか可能性を探ることができればありがたい。これまでは日本の学会誌に掲載されることを目標に論文を執筆してきた。おもに日本語で書かれた先行研究をもとに論文を書いているため、英語論文を書くとしても先行研究として挙げるのが日本の学会誌と同様になってしまってもよいのかどうか疑問がある。また、どのような学会誌に向けて書いたらよいのかもまだわかっておらず不勉強なところもある。日本社会をフィールドとした歴史社会学・社会史をご専門とされている先生で英語論文を書かれている方がおられたら、どのような学会誌に向けてどのように書かれているのかをお伺いできればありがたい。

先行研究への位置づけの考え方(海外に発信するにあたって日本のドメスティックな文脈をどのように入れるのか、むしろその文脈は捨てるつもりで海外の文脈に根本的に考え直すのか)継続を希望します。

何のメリットがあるのか、期待される英語レベルはどのくらいなのか、明示してほしい。

ISA Forumで発表予定ですが、発表が終わるとホッとしてしまうので、その後にワークショップを開催していただけると、モチベーションが保たれて助かります。

日本語で執筆する場合と英語で執筆する場合では、参照する(あるいは「仮想敵」とする)文献を変えるべきだと聞いたことがあるので、そのあたりのコツについて知りたい。

ページ数が少なかったり、レベルが低くても載りやすい学会を教えて欲しい。質より数が欲しい。要旨の書き方(日本語論文でも必須なので)についても触れていただければと思います。また国際学会に出す際の経歴の書き方も困った経験があります。

大阪の方が近く行きやすいです。いずれにしろ、1日ばかりで出張しなければいけないので、なるべく経費の使いやすい時期にして頂けると助かります。

ちゃんとしたプロの講師にきてもらいたい

参考になる書籍や Web の紹介も入れていただきたい。

本ワークショップを企画していただき、ありがとうございます。ある 이슈を日本という国の事例を使って国際誌上で論じるとき、日本の背景歴史制度文化慣習などを説明する必要があると思いますが、その際、全体の構成のなかでどのあたりに位置付け、分量はどのくらいにするのが妥当なのか、東アジアの特殊な話とならないように伝えるためのコツのようなものがあるのか...などについて、教えていただきたいです。

いまや「グーグル翻訳」の利用はみんながしているとおもう。G 翻訳と有料の英文校閲との上手な組み合わせかた。口頭発表については、上手は質疑応答事前シナリオの作り方。論文投稿については、レフェリーとの上手な対応の仕方。

一度ワークショップに参加したことがあります。そのときに「日本語を翻訳しようと思わずに始めから英語で考えて書くように」と説明があり、日本で育って日本の受験戦争のなかで英語を学んできた自分には無理だと感じました。そもそもアメリカやイギリスの大学で学んだ人であれば、こうしたワークショップに出なくてもよいのではないかと思います。多くは、TOEIC900点前後で大学院レベルの英語力はあるが、日本脳の持ち主でこれからの国際化にそなえて英語論文を書きたいが、どう取り組んだらいいか、というニーズではないかと思います。日本語英語しか書けない人のスキルがアップするワークショップをお願いします。

ISA に合わせたワークショップは非常に役立ちました。

発表や提出する前に、専門が近い方による英文チェックを受けられる体制があればよいと思います。以前業者に頼んだことがありますが、品質の差が激しかったように思います。おそらく専門の特殊性にあるのだと思います。